

お寺にふさわしい結婚!?

全曹青広報委員 紫安敬道(熊本県曹洞宗青年会)

「リン、リン、リン」お寺の電話が鳴り響く…。お檀家さまが亡くなられたという電話です。これから、一頻りお寺が慌ただしくなります。枕経、通夜、葬儀、火葬と続くだけでなく、その合間にも、以前から受けていた法事等も重なっています。その後も一週間ごとの七日経もあり、それらの行事をようやくこなし、少しは休めるかなと思うと、また「リン、リン、リン」…。これが続くといいかげん誰かお寺の留守番やお茶の相手をしてくれる人、一緒にお寺のためにがんばってってくれる人がいれば…。そう思うようになるのです。普段は結婚願望のない私の脳裏に「結婚」の2文字が頭によぎるのは、決まってこのような時です。

「そ」もそもお坊さんにとっての結婚相手とは、どのような人が良いのでしょうか？話が合う、趣味が合う、人柄が良い、ただそれだけでもなさそうです。

試みに、毎月お経をあげさせていただいているお檀家さまに、「結婚するにはどうしたら良いか」と尋ね回ってみました。普段から結婚の話になると、良いようにはぐらかしていたので、いざそのような質問をするとう、お檀家さまたちも「待ってました」と言わんばかりの反応です。おかげで色々な意見を伺うことができたのですが、中でも気

になったのが、

「ようやく若和尚も結婚する気になったとたい。そらよかばい。ばってん、結婚相手はお寺にふさわしか人じゃなかといかんばい。誰でっちゃん良かわけじゃなかけんね。良か相手ば選ばんといかんよ」とのご諫言です。

早く結婚しなさい？相手はよく見て選び



なさい？どうにも矛盾した内容ですが、お檀家さまが望んでいるのは、どうやら「お寺にふさわしい」結婚相手のようです。

「お」寺にふさわしい「結婚相手って、どんな人でしょう。試みに今度は、宗門でのジェンダーについて積極的に発言しておられる川橋範子先生(名古屋工業学大学院准

教授『女性と仏教 東海・関東ネットワーク』(会員)に尋ねてみました。

「お寺にふさわしい」なんて問題のある概念の是非はともかく(苦笑)、結局は伴侶に「体のいいメイド役」を求めている限り、世間の人からはあきれられるだけだと思えますよ。私の夫も同じ感想でしたね。」

ハッサリ、です…。でも、川橋先生はどのように語を継がれました。

「でも私は、青年僧侶がそのように考えるのは仕方ない、とも思っています。だってそれは、上の世代の価値基準を、無自覚に再生産しているわけですから。わたしの近くにも、寺族は住職を陰でお世話するのが役目、とか公言する僧侶がいます。私は、青年僧侶には「自立力」を求めたい。伴侶の協力がなくても寺務が円滑にいくのが本来でしょうし、そもそも曹洞宗は「僧侶が自活する」という宗風でしょう？僧侶の結婚を絶対視し、かつ家長制的な「家庭仏教・世襲仏教」を軌範とするあり方は、宗門のマイノリティを排除することにつながると思いますよ。結婚しなくても、子供を作らなくても、それはそれで僧侶として尊重される生き様ではないでしょうか。」

お寺が忙しいから、という理由だけで結婚してはいかんとですね。縁あれば抗いませんが、川橋先生の「結婚はしなくても良い」この金言が、今後の励みになりそうです。